昭和16年5〜6月の 櫻島火山活動報告

鹿兒島測候所

I. 鹿兒島市に於ける火山活動觀測

櫻島は 4 月 28 日の活動以後 5 月 1 日まで稍々多量の噴煙をあげ，その後大體平靜になつたが，5 月 15 日から再び活動を始めた．次に鹿兒島測候所に於ける火山活動觀測を記す．

5 月 15 日 14 時 18 分には南岳頂上約 600 米の高さの黑煙が當所から觀測された．16 日・1 日は曇天のため當所から櫻島は見えなかつたが，小爆發が續いたやうである．

18 日には活動が次第に盛となり，爆發回數も多く勢力も加はり，島の東側及びその對岸地方には降灰があつた．噴煙は冠雲のため當所から充分觀測が出來なかつたが，15 時頃から數回認められ，18 時 30 分には火口上 800 米のものが觀測された．その後冠雲と曇天のため觀測は出來なかつたが，爆發は續發し降灰も續いた由である．

22 日には活動は愈々旺盛となり，鹿兒島市でも爆音が何回となく聞え，降灰があつた地域もある．當所では風向の關係か爆音は聞えず，雨天のため展望もなかつたが，地震計は 5 回の相當顯著な記象を殘してゐる．

23 日には活動は一層盛になり，當所から 25〜30分の間隔で噴煙が觀測され，特に顯著なものは地震計にも相當に感じた．

II. 櫻島に於ける火山活動觀測

5 月 25 日から櫻島黑神部落に所員 2 名を派遣駐在せしめて，5 月 26 日〜6 月 14 日間徹宵櫻島の火山活動を觀測した．

1. **活動狀況** 5 月 26 日〜29 日の活動は音響を伴はないものが多かつたが，その後の活動には鳴動が聞えるやうになつた．これと同時にそれまで少かつた火柱は 5 月 29 日夜から多數觀測され，赤熱噴石が認められるやうになり，30 日夜半頃から殆ど全爆發に火柱を伴ひ，6 月 2 日夕には火柱は高さ 300 米以上，赤熱噴石の分布範圍は半徑數百米に及び，これらの噴石には落下後數十分間光輝を發してゐるものもあつた．なほ，同日晝間には，噴石及びこれらが砂塵を上げつつ谷間に轉落するのが認められるやうになつた，3 日未明には大爆發があつた．

その後の活動勢力は弱くなり，噴煙量は多かつたが爆音は小となり，次第に鎭靜に向つた．また 7 日・8 日及び 13 日・14 日には活動が稍々旺盛となり，以後は天候が惡くて觀測は不充分であつたが，依然小爆發が繼續したやうである．

2. **火口狀況** 本活動期間中の活動火口の狀況は大體次の通りである．

5月27日朝，活動火口が稍々擴大し，6月1日15時39分ごろ頂上の火口内壁が崩壞，同日夜再び崩壞し，2日朝には火口が2倍の大きさになり，3日未明の大爆發後北側火口内壁が小

爆發回數表

月	日	爆發回數 大	中	小	合計	地震 鹿兒島	記事
V	15					1	
	16					—	
	17					—	
	18					2	
	19					3	
	20					2	
	21					—	
	22					5	
	23					7	
	24					6	
	25					9	
	26	3	—	51	54	6	終日曇天，山は雲に掩はれ音のみによる．
	27	3	16	18	37	1	朝まで雲に包まる，火口やや大となる．
	28	6	28	43	77	9	夜間火柱一面に上る．
	29	13	43	45	101	3	火柱多く，赤熱噴石．
	30	11	42	41	94	30	火柱・赤熱噴石盛ん．
	31	19	106	74	199	27	爆發いよいよ激しくなり，夜間概ね火柱を伴ひ火口週邊に赤熱噴石飛散多し．
VI	1	25	140	90	255	35	爆發間斷なく，夜は全部火柱を伴ひ高きは350米に達し，赤熱噴石多く，長きものは約40分間光輝を發す，15^h39^m 火口崩壞大きさ約1倍半となる．
	2	18	118	52	188	44	夜間更に火口崩壞2倍近くの大きさになる，爆發なほ盛んにして，噴煙多く火柱・赤熱噴石撒布範圍徑數百米以上に及ぶものあり．
	3	14	52	39	105	17	2^h29^m，3^h47^m 大爆發あり，火口壁少し崩壞，その後噴出力弱く噴煙量多きも爆音小となる．
	4	1	11	36	48	6	爆發回數少なきも，夜は火柱・赤熱噴石數回觀測す．
	5	3	3	15	21	4	曇時々雨あり，充分觀測出來ず．
	6	5	31	40	76	7	噴煙量多きも音響小，火柱少し．
	7	4	70	106	180	20	正午頃より次第に勢力を得，夜間に強く火柱も多く赤熱噴石．
	8	3	33	93	129	23	強き爆發少なきも，火柱・赤熱噴石．
	9	3	34	69	106	16	〃
	10	1	22	57	80	8	爆發勢力弱く，火柱なし．
	11	5	11	45	61	23	雨にて觀測充分ならざるも，勢力弱きものの如し．
	12	8	12	51	71	8	雲に掩はれ，觀測充分ならざるも，勢力弱きものの如し．
	13	12	44	62	118	32	曇觀測充分ならざるも，午後次第に勢力加はり噴煙量多く，夜火柱・赤熱噴石．
	14	4	18	31	53	21	狀況變化なく，夜火柱・赤熱噴石．

註：本表中，地震以外は櫻島に於ける觀測である．

崩壞した．本活動後，南岳東南東側斜面上の馬蹄形舊爆裂火口内には噴石が一面に撒布せられた．

3. **活動の種類及び階級** 今回の活動に於て，次の 2 種類の活動が觀測された．

1. 黑煙が非常に多いが，音響が聞えないもの——噴煙の射出度が小で，「モクモク」と昇騰する．

2. 噴煙量の多少に關せず音響を伴ふもの——噴煙は如何にも發射されるやうにみうけられる．この音響に 2 種類ある．

イ．「ドン」といふ音響が聞えてから，暫くたつて「ドドッー」あるひは「ゴォゴォゴォ」といふ雷鳴樣音が續く場合が多い．

ロ．「ドン」といふ音響が聞えず，はじめから雷鳴樣音だけが聞える．

今回の活動に於て，大體大・中・小の種類の階級の活動が分類された．

爆發の階級

大 噴煙量が多く；音響は近くの大砲或は中雷の程度で，觀測點まで空振が感ぜられ，夜間は音響大，火柱數十米以上・赤熱噴石飛散する程度．

中 噴煙量が稍々少く，音響は弱雷程度で，夜間は火柱數十米以下，多少赤熱噴石がある程度のもの．

小 音響は遠雷程度以下で，夜間は火柱・赤熱噴石が殆どない程度のもの．

4. **活動の週期及び回數** 活動が盛な時には，爆發は約 20 分の間隔をおいて群をなしておこり，且この群の中には，約 2～5 分の間隔をおいて數回の爆發があつた．尙，活動は 1 週間前後の週期を有するやうであり，氣壓が高い時，あるひは氣壓が上昇してゐる時に盛になる傾向がある．また，活動は相當量の降雨の後に活潑になる傾向がある．

なほ，本活動期間の櫻島に於ける爆發回數は前頁に示してある．（爆發回數表參照）．

5. **被害及び異常** 今回の活動では，活動火口北方の谷の樹木が概ね燒き盡され，降灰が長期に亙つたため，煙草・甘藷・果樹等が多少損害をうけ，家畜飼料用雜草に困難を來した程度の被害があつた．

なほ，今回の活動に伴つて櫻島及び附近には，地盤の隆起等の事實がなく，地熱・井水等の異常及びその他の前兆は何等認められなかつた．